

令和5年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画		
学校運営方針	1 単位修得の支援体制の整備と具体化 ・基礎学力の定着、出席率・修得率の向上、定通併修制度の充実 2 健康で、豊かな感性や倫理観、規範意識を育む教育の充実と具体化 ・自律性の育成と規律の維持、教育相談の充実、人権・同和教育の実践 ・成年年齢引下げを踏まえた消費者教育、主権者教育および法教育の充実 3 キャリア教育の充実と具体化 ・社会人として身に付けておかねばならない諸能力の育成 ・主体的な進路設計を伴った、将来の自立を促す教育の充実 ・特別支援教育と連携した進路指導の推進 4 学校における働き方改革 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」に従い効率的な業務管理の実現 ・時間外勤務時間1か月45時間以内、1年間360時間以内を目標とする	
昨年度の成果と課題	令和5年度の重点目標	具体的目標
[成果] ・令和5年1月に実施した生徒意識アンケート結果では、「本校は安心して学習できる環境になっている」と感じている生徒は92.6%、「先生は、自分が困ったときに親身になって相談に乗ってくれたり、考えてくれる」と感じている生徒は95.6%であった。アンケート全体における学校満足度も83.8%と前年度よりも約4ポイント上昇した。 ・保護者アンケートでも生徒アンケート同様の高い評価を得た。	・基本的な生活習慣確立を目指し、生徒と教員間の信頼関係作りと問題行動の未然防止のために生徒指導部および特別支援教育推進委員会と各年次との連携を密にする。 ・各専門の関係諸機関との連携を通して、安全教育に配慮する。 ・生徒会、クラブ活動、ボランティア活動等を通じて学校生活を豊かにする。 ・成年年齢引下げを踏まえた自立に向けた教育を推進する。	・生徒指導部と各年次が連携し、注意喚起と情報共有を図り、事件事故の未然防止に努める。 ・校内外巡視や立番で生徒への声かけを実施する。 ・挨拶励行や身だしなみを正し、規律ある学校生活を主体的に築く。 ・自立に向けた教育の一環として、交通安全指導、薬物乱用防止講話を行う。 ・クラブ活動の活性化やボランティア活動を推進する。
[課題] ・生徒間のコミュニケーション力を高め、情報モラルを啓発するように、より効果的な指導方法について、SCをはじめ、各専門の関係機関との連携した取組が急務である。 ・生徒指導では、SNSに関わるトラブルが多発している。校内における指導はもちろん、外部の関係機関からの講師を招いた講演を充実させ、これまでに以上に保護者と連携した取組が必要である。	・多様な生徒を理解し支援するために、全職員が教育相談に関する知識と技術を学び、実践する。 ・特別な支援が必要な生徒の指導、特に就労支援の充実を図る。 ・人権教育、同和教育を推進する。	・SC及びBSW等と連携して、助言・連携支援を得ながら職員研修の充実を図る。 ・各専門の関係機関と連携を図り、一人一人に応じた支援を計画し実践する。 ・教育活動全体を通して自己理解・他者理解を深め、人権意識を培う。
	・キャリア形成に必要な意欲、態度を育む。 ・郷土に根ざした、地域の特色を生かした活動や体験活動等を通して生徒の自尊感情や自己肯定感を高める。	・キャリアガイダンス部が中核となり、進路達成に努める。 ・キャリア教育推進委員会が中心となり、生徒の就労を計画的かつ継続的に支援する。 ・就業体験やインターンシップなどの活動を通し、社会人として必要な諸能力を育成し、生徒の主体的な活動を支援する。 ・学校設定科目「環境と植物」をより充実した形で実践する。
	・丁寧な学習指導や体験的な学習活動を通して基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。	・教員研修（互見授業の実践、中高連携の促進など）を充実させる。 ・学校設定科目等を通して、生徒の学習への興味・関心を高める。 ・ICTを利活用し、個別最適な学習を促進する。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
基本的な生活習慣の確立	挨拶や身だしなみを正し、規律ある学校生活を築く（生徒指導部生活指導係）	・生徒と教員間の信頼関係を築き、問題行動の未然防止に努める。	B	B	B
		・スマートフォンやSNSの適切な利用方法を学び、法令を遵守するように指導する。	A		
		・成人年齢引下げにかかわるトラブルの防止を目的に、保護者を含めた、啓発をすすめる。	B		
		・「MY LIFE」（生徒指導だより）を発行して、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、望ましい学校生活を確立させる。	A		
	交通安全指導（生徒指導部交通係）	・家庭や県警と連携し、事故防止のための講話や実技指導を行うなど、自転車運転も含めた交通安全教育を実施する。	B	B	
基本的な生活習慣を身につけ、基礎学力の充実を図り、集団の中で適切な行動をとることができるようにする。（1年次）	・学校生活の中で自己理解を深め、自己肯定感の向上と、集団生活を送る上で必要な能力を身につけるよう細やかに指導する。	B	B		
	・聴く力を養い、コミュニケーション能力の向上を目指す。	B			
学校生活を通して、規律を身に付けさせるとともに社会性を習得させ、責任感を養う。（2年次）	・基本的な生活習慣を確立させ、自立し自分の行動に責任を持つよう指導する。そのために他人への思いやりの心を育て、生きる力とコミュニケーション能力の習得を目指す。	B	B		
多様な生徒への支援	生徒理解・支援に向けて教職員の共通理解を図り、教育相談や特別支援教育を充実させる。	・特別支援教育推進委員会が中心となり、教職員のニーズに応じた職員研修を実施する。（特別支援教育推進委員会）	A	A	A
		・個別のニーズに対応し、外部機関と連携して自立支援の方策を模索する。（生徒指導部教育相談係・特別支援教育推進委員会）	B		
		・校内ニーズの把握と支援策検討のため、SCと連携し、適切な支援のあり方を検討する。（生徒指導部教育相談係）	A		
キャリア形成の意欲、態度を育成	生徒の進路意識の啓発（キャリアガイダンス部、3・4年次）	・講演会、企業（学校）見学等の進路ガイダンスを通して、自己を見つめさせ、進路意識の高揚を図る。	B	B	
	大人としての自覚を持ち、主体的に進路設計を考え、社会人として自立できる生徒の育成（3・4年次）	・個別の進路指導を充実させ、生徒の適性や希望を把握する。	B	B	
		・個別面談や職場見学を実施し、希望に添った進路実現を目指す。	A		
		・特別支援を必要とする生徒に対して、関係機関と連携しながら適切な進路指導を行う。	A		
		・校外模試等を活用し、結果を分析して適切な志望校を選択させる。	B		
・進学説明会やオープンキャンパス等に参加させ、進路実現を目指す。	B				
生徒の自尊感情や自己肯定感の育成	生徒会行事や部活動への積極的な参加を促し、学校生活を活性化させる。（生徒指導部生徒会係）	・生徒会執行部の生徒を中心に、行事の企画運営を主体的に行えるように支援する。また、行事を通じて所属感や連帯感を養い、協力してよりよい学校生活を築く態度を育てる。	B	B	B
		・専門委員会の活動を明確にし、活性化を図る。	B		
		・部活動を充実し、心身の健全な発達を目指す。	B		
		・生徒会の三役および執行部の人員を確保し、次年度以降も継続的に活動できるようにする。	A		
PTA活動の活性化	保護者がPTA活動に興味・関心を持ち、行事や活動に参加しやすい環境をつくる。（PTA委員会）	・学校行事の様子や進路、PTA活動など保護者への情報提供を充実させる。	A	B	B
		・情報の提供や交換の場として、保護者の集いやしゃべり場を実施する。また、保護者同士の親睦を深めるため翠江祭でのバザー等各種イベントを企画する。	B		
基礎学力定着、学習意欲向上	身近な教材を工夫し、年間指導内容を蓄積する（教務）	・シラバスをもとにわかりやすい補助教材や体験的な学習の工夫を進め、年間指導計画の中に位置づける。	B	A	B
		・授業時数を確実に確保する。	A		
		・生徒の希望、進路、学習歴等を考えながら、丁寧な履修登録指導に努める。	A		
	学習意欲の向上を図る。（国語）	・生徒の理解度に応じた課題設定をし、興味・関心を引き出す授業プリントなどを工夫し、基礎学力の定着を図る。	B	B	
・発問の仕方や授業展開を工夫し、生徒が意欲的・主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。	B				

	基礎学力の定着及び向上を図る。(地歴公民)	・生徒の理解力に合わせた補助プリントや資料、視聴覚教材などを利用して、わかりやすい授業を目指す。	B	B	B
		・生徒の実態に合わせて授業内容や実践方法を工夫し、興味・関心を引き出し、印象に残る授業を展開する。	A		
	基礎学力の定着を図り、数学的活動を通して、数学への理解を深める。(数学)	・習熟度別少人数授業の利点を生かし、個々の生徒に応じた細かな指導を行い、生徒が学習の達成感を実感できるような授業を目指す。	B	B	
	自ら積極的に学習に取り組む態度を培う。基礎・基本の定着を図る。(理科)	・生徒の理解度に合わせた授業内容、授業プリントを工夫し、わかりやすい補助教材などを用いて、基礎学力の定着を図る。	B	B	
		・実験や演習実験、野外実習など、体験的学習の工夫を図ったり、身近に起こる現象を例に挙げることで、生徒の興味関心を引き出す。	A		
	体力の増進とスポーツに必要な運動能力の伸張を図る。また、スポーツを通じて、公正な態度を養う。(保健体育)	・生徒の体力、能力を踏まえ個に応じた指導を行う。	A	B	
		・各運動やスポーツを通して、最後まで諦めずやり遂げる心を身に付ける。	B		
		・集団で行う運動を通して、運動の楽しさと協調性を養う。	B		
	基礎的な技術の習得と、自己表現の力を養う。(芸術)	・個々の能力と感性に応じた指導を心掛け、基礎技術の習得と定着を図る。	B	B	
		・豊かな感性を育むため、鑑賞の内容を充実させ、自己表現の場として校内での作品展示、発表を行う。	A		
	基礎学力の定着を図る(英語)	・「翠江生の英単語850」をもとに、月1回単語テストを行う中で、生徒が苦手意識を克服し、やる気を引き出し、達成感を得られるようにする。	B	B	
	生活の自立に向けた基本的な知識と技術の定着を図る。(家庭)	・生徒の理解度を確認しながら、繰り返し粘り強い指導をする。	B	B	
・検定や実習を取り入れ、明確な学習目標を持たせることで学習意欲の向上を図る。		A			
情報活用能力の育成を図る。(情報)	・パソコンや携帯端末機器を利用する際の情報モラルを習得させ、ネットマナーを遵守する態度を身に付けさせる。	B	B		
	・社会で広く使われている基本的なソフトウェア(ワード、エクセル、パワーポイント)を活用する能力を身に付け、情報を処理する能力を高める。	B			
ビジネスの基礎知識を習得させる。会社でのマナーや事務処理を理解させる。(商業)	・企業のビジネスにおける専門的知識を学ばせる。	B	B		
	・生徒の実態に応じたきめ細かい指導を行う。	A			
	・会社実務の理解を促すため、有効な教材を活用する。	B			
成 果	<p>令和6年1月に実施した生徒意識アンケート結果では、「先生は、わかりやすい授業をするために工夫していると思う。」と感じている生徒は91.4%、次いで「科目によっては少人数での授業がありますが、自分に合っていると思う。」と感じている生徒は89.7%であった。また、保護者アンケートでは「新潟翠江高校はスクールカウンセラーをはじめ、教職員が親身になって生徒の相談に応じている。」と回答した保護者は100%、次いで「新潟翠江高校は 少人数や習熟度別でわかりやすい授業をすすめ基礎学力の定着を図っている。」「新潟翠江高校は企業見学、就業体験インターンシップを通じて自分を理解し職業意識をもった生徒を育てようとしている。」「新潟翠江高校の校舎・校地内は清掃が行き届いている。」では、いずれも97.7%の高い評価を得た。</p> <p>引き続き、生徒が安心して学校生活を送れるように取り組んでいくとともに、保護者・地域をはじめ外部機関との連携を深めていきたい。</p>			総合評価	
				B	